vol.130
2026年9月

ばら

福山市民病院広報誌

Fukuyama City Hospital

日本医療機能評価機構 認定第JC1055号

特集

2026年度
地域医療連携のつどい

新本館Ⅰ期開院に寄せて



新本館屋上に着陸した ドクターヘリ

福山市民病院理念

質の高い安全な医療を通じて「安心と生きる力とやすらぎ」を
地域に提供するとともにこころ豊かな医療人を育成する

地域医療支援病院 | 地域がん診療連携拠点病院 | 救命救急センター | 肝疾患診療連携拠点病院 | 災害拠点病院 | 臨床研修病院
緩和ケア病棟承認施設 | 第二種感染症指定医療機関 | DPC 特定病院群 | がんゲノム医療連携病院 | 小児救急医療拠点病院 | 紹介受診重点医療機関

巻頭言（かんとうげん）

『新本館Ⅰ期工事の完成に続く病院移転という壮大なイベント』



副院長／安全管理室長
池田　雅彦

２０２６年４月、病院長に植木前副院長が就任されました。同時に私は２０２２年４月から務めた診療部長を辞し、内田看護部長とともに副院長を拝命いたしました。病院環境をとりまく非常に厳しい情勢の中、与えられた責任の重さに身が引き締まる思いです。副院長２名で植木院長を全力で支え、病院の発展に努めてまいりたいと存じます。

当院は１９７７年に現在の本館のみの２５０床で開院、２００３年に東館が完成、２００５年に救命救急センターが開設。２００６年には４００床に増床し、２０１３年に西館が開設し、現在の５０６床になりました。

その歴史と伝統を担ってきた本館ですが、老朽化に伴い建て替え工事が着々と進んでおり、この度、新本館Ⅰ期工事が完成し、７月25日に多くの首長、議員、医師、建設関係者、その他の皆さまのご列席のもと竣工式が執り行われました。職員用の立体駐車場の最上階から病院全体を見下ろすことができますが、本当に立派な建物ができたと感激しました。全国でも屈指の自慢できる病院だと思います。完成までに並々ならぬご尽力を賜りました全ての関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

今回の新本館Ⅰ期工事では新しい救命救急センター（２階）、周産期母子医療センター（３階）、南病棟（４～６階）、新しい臨床検査部門と放射線診断部門（１階）が完成したわけですが、完成しただけでは仕事はできません。我々にはⅡ期工事で取り壊される部署の検査機器、物品、そして入院患者さんの壮大な引っ越しが８月８日（土）・９日（日）に待ち受けていました。具体的には、

①救命救急センター
（東館１・２階→新本館２階）
②産婦人科・新生児医療
（東館４階病棟）
←
周産期母子医療センター
（新本館３階）
③本館５階病棟→新本館４階病棟
④本館４階病棟→新本館５階病棟
⑤本館６階病棟→新本館６階病棟

になります。

この引っ越しのため、４月から病院移転のノウハウを持つ業者とともに毎月のように会議を重ね、患者搬送人数が極力少なくなるように診療制限（直前の手術制限、二次救急受け入れ制限など）を地域の医療機関などに通達しました。また移転当日の業務にかかわる職員の選定にも取り掛かりました。不測の事態に備えて新旧各病棟に医師４名を配置しました。患者搬送は看護師３人１組の７チームが、分刻みで患者様一人ひとりを決められた動線に沿ってベッド搬送することを確認しました。事務系職員はエレベーター係やタイムキーパー、緊急連絡係として随所に配置されました。

７月11日（土）、第１回目の患者搬送シミュレーションが実施されました。責任者的立場の数十人の参加を見込んでおりましたが、当日は想定外の50名以上の職員が集まってくれ、３病棟で実施しましたが、参加職員の整然かつ献身的な態度を見て、本番の患者搬送はきっと成功すると確信できました。８月１日（土）には全員参加のもと、本番と同じスケジュールで第２回目のシミュレーションが２病棟で実施されました。

さて、本番は、当日朝まで看護師長をはじめ病棟スタッフで搬送患者リストが作成され、８月８日（土）、午前８時、旧救命救急センター９名を皮切りに患者搬送を完了。10時は何事もなかったように新救命救急センターでの急患受け入れが始まり、10時30分には救急外来の診察室は全て埋まっていました。驚きです。

「ばら」130号 CONTENTS

2 巻頭言

特集

4 2026年度 地域医療連携のつどい

8 新本館Ⅰ期開院に寄せて

12 学会報告

13 緩和ケア週間

14 ニュース（受賞報告）
市民公開講座案内

15 ひまわり
管理者室より、研修医日記、
外来診療担当表、Instagram

16 フロアマップ



13時から東4階病棟の患者21名を周産期母子医療センターに搬送。15時からは本館4階の15名を搬送。

8月9日(日)は、8時30分から本館5階の16名を、13時からは本館6階の10名を搬送しました。両日ともにほぼトラブルはなく、幸い配置した医師にも〝仕事〟は発生しませんでした。休日にもかかわらず参加いただいた職員(医師30名、看護師47名、事務系職員24名)の皆さまには深謝申し上げます。



さて、ここ数年は多くの病院同様、東欧及び中東での紛争に端を発した医療材料費高騰と人件費高騰によって、当院も経営は厳しい状況です。医業収益は増収なのに…。病院は基本的には独立採算制ですので、経営改善のために我々はワークライフバランスを意識しつつも、とにかく働かなければなりません。病院が新しくなっただけでは都合よく患者さんは増えません。今回、病院移転という壮大なイベントはチームワークで難なく乗り越えました。今後も新体制のもと、職員が同じ方向を見て、火の玉となり、地域のため、ひいては自らのために奮闘してくれるように先導するのが副院長である私の務めだと思っています。Ⅱ期工事は2031年に終了し、病院全体が完成するのは2032年の予定です。それまでに明るい未来が見える病院になっていることを切に願っています。



2026年度 地域医療連携のつどいを開催しました

地域医療連携課　課長　塚村　夕布子




高倉事業管理者あいさつ

7月9日(木)に「第13回福山市民病院地域医療連携のつどい」を開催いたしました。

今年度は院外から249名をお招きして総勢358名に参加いただきました。

開会にあたり高倉事業管理者のあいさつでは、院長をはじめとする管理体制が大きく変わったこと、7月に新本館が完成、移転に向け動き始めていることなどを話されました。

続いて植木院長より、7月12日の内視鏡学会の案内と8月に神石高原町で開催の「日本スカウトジャンボリー」において場外搬送となった場合の協力について話され、最後に院長としての決意表明をされました。医療最前線講演として、循環器内科の荒井靖典医師が「これからの心不全診療について」と題し、循環器クリニックとかかりつけ医の併診制度の意義について話されました。心不全ネットワークの構築を目指す目的として、圏域の患者を救っていくためには、地域の医療機関のお支えが必要だという切実な想いが伝わってくる講演でした。

次に、医療連携に関する講演は、小児・新生児科の飛梅斎医師が、「小児科の現在と慢性疾患のトランジション」と題して、当院で診療している疾患、救急搬送内訳、紹介患児の入院率等について話されました。小児医療から成人期医療へのトランジションの必要性と、8月12日から開始となる新生児お迎え搬送の取り組み、ホットライン新設について地域の医療機関へ協力をお願いされました。


植木院長あいさつ


荒井靖典医師


飛梅斎医師


医師会藤岡会長

講演後、今期より福山市医師会長になられた藤岡会長からあいさつをいただき、乾杯のご発声と共に懇親会が始まりました。会場は多くの参加者の皆さんの談笑と情報交換が活発に行われ、当院としても、より密度の濃い交流の場になったと感じております。

さらに、髙田診療部長から、今年度着任した医師の紹介があり、代表して春間朋子医師があいさつをしました。出席できなかった医師もスライドショーで紹介をさせていただきました。あっという間に時間が過ぎ、情報交換の時間も十分とは言えなかったかも知れません。



新任医師紹介



春間医師

今後も、「医療機関の先生方や連携担当者の方々にとって顔が見え触れ合いの場となること、どんなことでも話し合え、連携が取れる場になること」をモットーに、急性期から在宅まで患者さんを中心にした連携が図れる病院となれるよう努めてまいります。

最後は、池田副院長のあいさつで、地域の医療機関の皆さまへの感謝とこれからの当院の抱負を述べられ、閉会となりました。

院内外、遠方からもご参加くださいました皆さまに心から感謝いたします。協力いただいたスタッフの皆さまにもお礼申し上げます。



池田副院長



お見送り



参加者



地域医療連携課長



準備



記念撮影

「これからの心不全診療について」

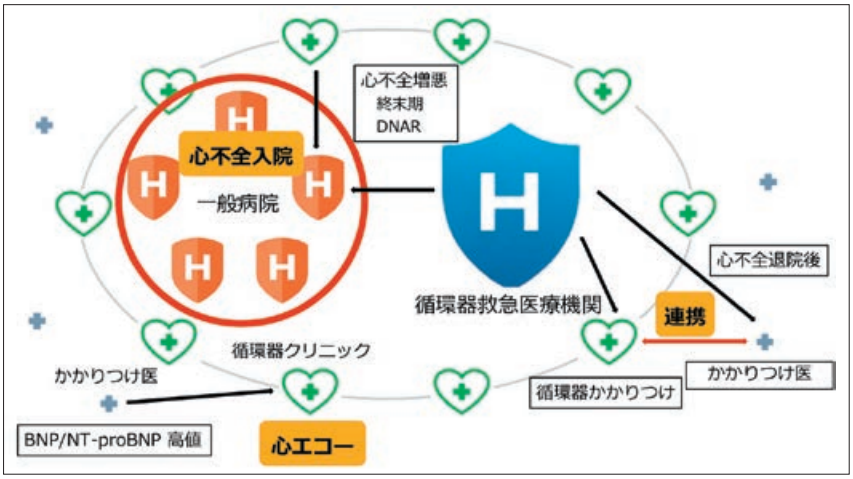
循環器内科　科長
荒井　靖典

人口の高齢化に伴い、心不全患者が急増する「心不全パンデミック」が大きな社会課題となっています。心不全は再入院率が高く、予後不良な疾患です。そのため早期発見や予防、そして発症後の適切な管理が重要です。

一方で、福山・府中・井笠エリアにおける急性期病院の循環器内科医は減少しており、医療資源の最適化が急務です。そこで当院は、高度急性期病院として重症の救急治療に対応する一方、地域の先生方と連携した「心不全ネットワーク」の構築を進めます。

第一に、心不全で一度入院された患者には、かかりつけ医に加えて、地域の循環器クリニックでも併診していただく二人主治医制の導入を考慮します。第二に、心不全の終末期や侵襲的治療を希望されない患者の心不全入院をスムーズにお受け入れいただけるよう、地域の一般病院と協力体制を構築します。第三に、かかりつけでの定期的な血液検査（BNP／NT－proBNP測定）や地域の循環器クリニックでの心エコーによる早期スクリーニング体制を推進していきます。

急性期病院と地域の医療機関、そして多職種が連携し、地域全体の循環器医療体制を維持・発展させていきたいと存じます。皆さまの温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



心不全入院の協力を快諾してくださった病院

いそだ病院
大石病院
笠岡市立市民病院
笠岡中央病院
神原病院
楠本病院
小畠病院
小林病院
山陽病院
島谷病院
菅病院
住吉ふじい病院
セントラル病院
寺岡記念病院
福山回生病院
福山城西病院
福山南病院
府中市民病院
府中中央内科病院

※ 掲載は五十音順

スクリーニングの心エコーを積極的に受け入れてくださる循環器を専門としている医療機関

池田響子ハートクリニック
庵谷内科循環器科
上田循環器科内科
おぐるすハートクリニック内科循環器呼吸器科
かめだファミリークリニック
しんがい内科・循環器内科 沼南クリニック
しんぞうクリニック
循環器・内科 ふじたクリニック
高橋脳神経外科循環器内科
竹本内科循環器科
谷口ハートクリニック
なかはまハートクリニック
福山クリニック
やまてクリニック
山成医院
井原市民病院
笠岡第一病院
山陽病院
菅病院
中国中央病院
沼隈病院

その他 1施設（無記名）

※ 掲載は五十音順

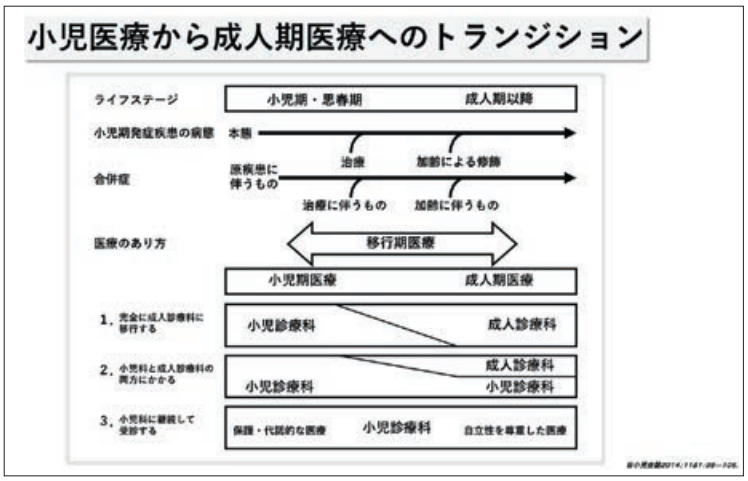
「小児科の現在と慢性疾患のトランジション」

小児・新生児科　統括科長
飛梅　斎

当院小児・新生児科は、地域の子どもたちが安心して医療を受けられるよう、24時間365日の救急受け入れ体制のもと診療を行っています。感染症などの急性疾患だけでなく、腎臓、循環器、血液・腫瘍、神経・筋、アレルギー、内分泌・糖尿病、膠原病、遺伝性疾患など幅広い分野に対応し、専門性の高い診療を提供しています。2025年度は外来患者12,897人、入院患者1,723人を診療し、救急患者は2,875人、そのうち救急車搬送は912台でした。

また、食物経口負荷試験や成長ホルモン分泌刺激試験、腎生検など、専門的な検査・治療にも取り組んでいます。2026年8月には周産期母子医療センターを開設し、NICU・GCUを整備するとともに、24時間365日対応の新生児お迎え搬送を開始しました。NICU専従医師を含む体制を充実させ、院内出生児だけでなく、地域の医療機関からの新生児にも対応します。さらに、小児期に発症した慢性疾患については、成人期を見据えた「移行期医療」にも力を入れています。患者さん自身が病気や治療を理解し、成長に応じて自己管理や意思決定ができるよう支援し、必要に応じて成人診療科へ円滑につなげていきます。

これからも地域の医療機関や多職種と連携し、周産期から小児期、思春期、成人期まで切れ目のない医療の実現を目指してまいります。





新本館Ⅰ期開院に寄せて

救命救急センター長　救急科　**柏谷　信博**

当院救命救急センターは、2005年に“広島県東部初の救命救急センター”として開設され、以来21年間で68,861人の救急車の搬送患者を受け入れました。2005年度に2,431人であった救急搬送受入人数は2025年度には4,221人まで増え「救急医療の最後の砦」としての役割を果たしてきました。このたびの新本館Ⅰ期工事完了に伴い、救命救急センターも新たな環境での診療が始まりました。



環境変化の1つは屋上ヘリポートの新設です。ドクターヘリや防災ヘリの直接離着陸が可能となりました。患者搬送時間が短縮され、ヘリポートから初療室へ直結する「縦の動線」により一刻を争う重症患者に対して、より早く高度な治療を開始できる体制が整いました。

また救急外来スペースの拡充や感染症に対応する陰圧初療室、救急外来と救命救急センターICU、HCUを同じフロアにした「横の動線」により安全でシームレスな救急医療体制を整えました。

患者搬送訓練



新しくなった設備の話ばかりしてきましたが、救急医療を行う上で最も大切なことは専門領域や職種の垣根を超えた強力なチームワークです。各診療科の医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床工学技士など専門知識を持つ多職種の連携を行い、これからも「安全で確実な救急医療」を実践していきます。

新しく生まれ変わった救命救急センターも「地域医療の最後の砦」としてスタッフ一丸となって地域の皆さまの命を守り続ける所存です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

屋上ヘリポート



救命救急センター入口



周産期母子医療センター　センター長　**早田　桂**

このたび、周産期母子医療センターが新本館3階に開設され、新たな環境での診療が始まりました。これから多くのお母さんと赤ちゃんをお迎えすることになります。この節目を迎え、これまで地域の皆さまとともに歩んできた周産期医療を発展させ、さらに次の世代へ繋いでいく責任を感じています。

妊娠・出産は、本来かけがえのない喜びに満ちた出来事です。しかし、妊娠中や出産の際には予期せぬ変化が起こり、母体や赤ちゃんの状態によっては一刻を争う判断や治療が必要となる場合もあります。だからこそ、安心して出産を迎えられる環境と、いざというときに迅速に対応できる体制の両方が必要です。産婦人科と小児・新生児科の医師、助産師、看護師を中心に、救急科、麻酔科、放射線科、手術部など多くの診療科・部門が緊密に連携することで、母体救急や新生児の急変などにも、より迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えていきます。また、周産期専門医（母体・胎児）3名、（新生児）3名を配置し、新たに最新の超音波診断装置を病棟に3台を導入して診断精度と診療技術の向上に努めます。

一方で、どれほど施設や設備が整っても、医療従事者と患者さまとの間に信頼関係がなければ医療とは言えません。妊婦さんとご家族の不安や期待に耳を傾け、一人ひとりの思いに寄り添うことを忘れず、安心して医療を受けていただける場所をつくっていくことが使命だと思っています。

この地域で生まれる一人ひとりの赤ちゃんは、地域の未来そのものです。新本館Ⅰ期の完成を新たな出発点として、母と子のかけがえのない命を守り、福山・府中地域のみならず井原・笠岡地区の皆さまに「この地域で安心して子どもを産み育てることができる」と感じていただける周産期母子医療センターを、スタッフ一同、力を合わせて築いてまいります。

NICU稼働状況



NICU稼働状況



GCU



NICU稼働状況



管理課建設担当課長　河村　亮

1. 新本館Ⅰ期　竣工式

7月25日、福山市民病院新本館Ⅰ期の竣工式を執り行いました。





竣工式の流れ

式典

西館1階ホールコアにて国会議員、県・市議会議員、備後圏域の首長・議長、近隣病院長など約100名が参列し盛大に執り行われました。

次第

① 開式
② 式辞　福山市長　枝広 直幹
③ 来賓祝辞　衆議院議員　小林 史明 様
広島県知事（代）　矢野 好輝 様
福山市議会議長　連石 武則 様
医師会会長　藤岡 正浩 様
④ 来賓紹介
⑤ 講話
川崎医科大学総合医療センター小児科
特任教授　塚原 宏一 様
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
産科・婦人科学教授　増山 寿 様
⑥ 謝辞　福山市病院事業管理者　高倉 範尚
⑦ 閉会

テープカット

新本館2階救命救急センター前に移動して行いました。

内覧会

参列者のうち、希望者に内覧を行いました。

これまで長い年月をかけて進めてきた増改築事業が一つの節目を迎え、式典には、事業に携わっていただいた多くの関係者の皆さまにご臨席を賜りました。新本館を前にして行われたテープカットでは、竣工を迎え、いよいよ新本館Ⅰ期がその役割を果たし始めることへの期待が高まりました。

振り返れば、大規模な増改築事業は、決して容易なものではありませんでした。医療を継続しながら、既存施設との調和を図り、工事を進めていく必要がありました。また、物価高騰による建設費の増額、資材等の納期遅延、職人不足など多くの困難な課題に直面してきました。こうした中、工事関係者だけでなく、病院で働く職員、そして地域の皆さまや近隣の医療関係の皆さまのご理解とご協力によって、事業を支えていただきました。





内覧会の流れ

3班にわかれて担当職員や医師がフロア毎に整備内容を説明しました。

屋上（ヘリポート）→ 6階（病棟）→ 3階（周産期母子医療センター（NICU・GCU・MFICU・産婦人科病棟））→ 2階（救命救急センター（ER・EICU・EHCU））→ 1階（放射線部門　生理機能検査）

2.　新本館Ⅰ期　運用開始

8月8日、開院に向けた患者さんの移転は、2階の救命救急センターから始まりました。集中治療を必要とする患者さん一人ひとりの状態を慎重に確認しながら、新しい病室へ移送していきました。途中、一部機器の調整を要する場面もありましたが、関係職員が迅速に対応し、概ね予定していた時間通りに移転を終え、すぐに最初の救急搬送が行われました。

最初の救急搬送





続いて3階の周産期母子医療センターの移転です。生まれたばかりの赤ちゃんを新しい環境へ移す場面では、自然と現場の緊張感も高まりました。一人ひとりの患者さんの安全を最優先に、慎重に移転を進めました。

こうした一連の移転を終え、新本館で医療が始まった瞬間、建物の完成が「医療の現場で使われる施設」へと変わったことを改めて実感しました。

移転の様子



3.　おわりに

竣工式を終え、工事関係者の手を離れた新本館は、医療現場の職員と患者さんのための施設として引き継がれました。建設を担当した立場として、この新本館が、日々の運用の中で息づき、地域医療を支える「最後の砦」としてその役割を果たしていくことを願っています。

新本館Ⅰ期の開院は、増改築事業全体から見れば大きな一歩であると同時に、ゴールではなく、これからの福山市民病院をつくっていくための新たなスタートです。これまで多くの方々に支えていただいたことへの感謝を胸に、私たち建設担当も、２０３２年度の全整備完了に向け、引き続き全力で取り組んでまいります。未来の地域医療を支える病院づくりのため、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。





学会報告

第136回
日本消化器内視鏡学会中国支部例会
会長を務めて



院長　植木　亨

2026年7月12日、福山ニューキャッスルホテルにて第136回日本消化器内視鏡学会中国支部例会を開催し、会長を務めさせていただきました。福山市での支部例会開催は今回が初めてとのことで、お話をいただいてから2年間、当院および近隣の消化器内科の先生方とともに準備を重ねてまいりました。

当日は梅雨明けの厳しい暑さの中、中国地方各県から合計428名もの先生及びメディカルスタッフの方々にお集まりいただきました。近隣施設のトップランナーの先生方による特別講演「早期膵癌」、教育講演「酸分泌抑制薬とピロリ菌」など、明日からの診療にすぐ活かせる内容をお届けすることができ、会長として何より嬉しく感じております。

今回さらに嬉しかったのは、当院の職員のみならず、日頃お世話になっている地域の開業医の先生方にも多数ご参加いただいたことです。しかも座長や演者としてご協力いただき、会を大いに盛り上げてくださいました。病院と地域が一体となって学会を作り上げることができたのは、何にも代えがたい財産だと感じております。

当院に赴任して15年、胆膵領域の症例を一つずつ積み重ね、若い先生方に修練の機会を与え、学会奨励賞や論文化を後押ししてきました。「教育研修は人のためならず」を合言葉に築いてきたこの取り組みが、今回の会長就任という一つの形になったのだと感じております。

これからも市中病院として、地域の先生方とともに研鑽を重ね、福山圏域の医療に貢献してまいりたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





ホスピス緩和ケア週間のお知らせ

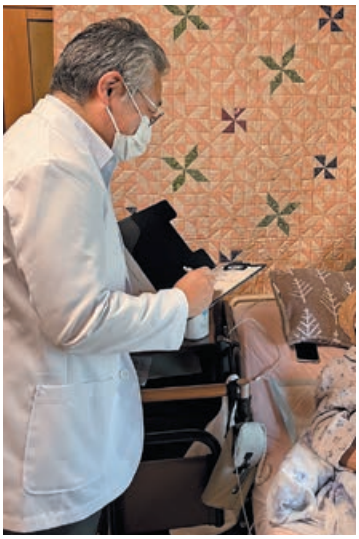
世界ホスピス緩和ケアデー（10月10日）

「ホスピス緩和ケア週間は、WHPCA（worldwide hospice palliative care alliance）が展開する世界的な緩和ケア普及啓発イベントです。「世界ホスピス緩和ケアデー」（毎年10月の第2土曜日）は、その一環として日本独自で取り組まれているものです。

1	目　　的	緩和ケア病棟から安心して在宅療養へ移行できるよう 多職種との連携、在宅療養移行後の緩和ケア病棟との関わり、 家族ケア（レスパイト）のあり方を正確に知ってもらい 認知度を高めるための啓発普及活動を行う
2	対 象 者	外来患者とその家族、面会者、院内スタッフ
3	期　　間	2026年10月4日(日)～10月10日(土)
4	開催場所	福山市民病院　元西館南玄関（予定）本館7階病棟 ※場所は変更する場合があります。



2025年のパネル展示の様子



緩和ケア科医師による
退院後の往診の様子

第81回日本消化器外科学会総会において、優秀演題賞をいただきました

外科　岡　航大

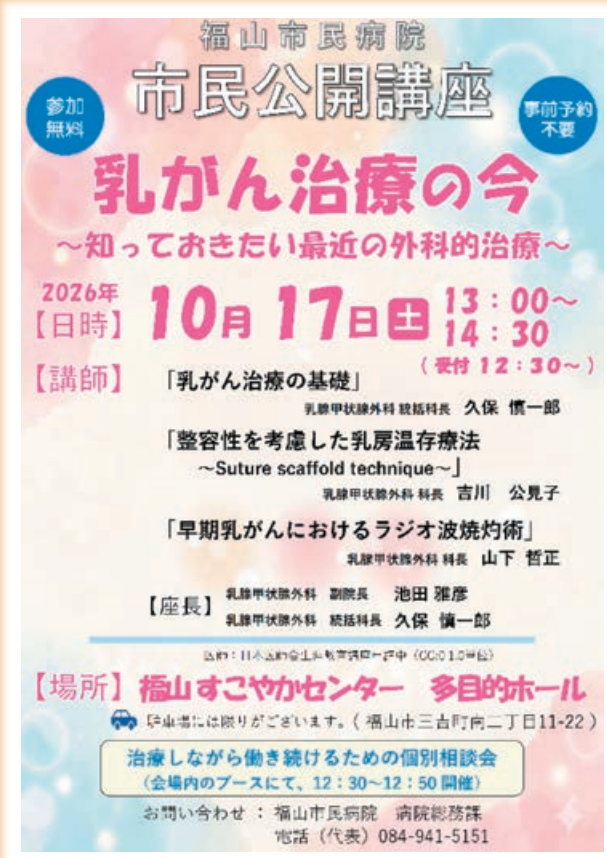
このたび、2026年7月15日～17日に横浜市で開催された第81回日本消化器外科学会総会において、「腸閉塞を契機に診断された腸管子宮内膜症の5例」という演題を発表し、優秀演題賞をいただくことができました。発表準備に際して、指導医の石川先生、病理の重西先生をはじめ多くの先生方にご指導・ご助言をいただきました。おかげで、このような賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、これからも日々の臨床に励むとともに、学術活動にも積極的に取り組み、精進していきたいと思います。



市民公開講座案内

10月17日（土）に
福山すこやかセンター
（三吉町南）で開催!
ぜひお越しください!!

入場無料



院内保育施設

ひまわりから

すいか割り

夏といえばプールに花火に夏祭り!
楽しいことがたくさんある季節です。
ひまわり保育園ではすいか割りを楽しみましたよ。

勢いをつけて…

実践!



エイッ!!!





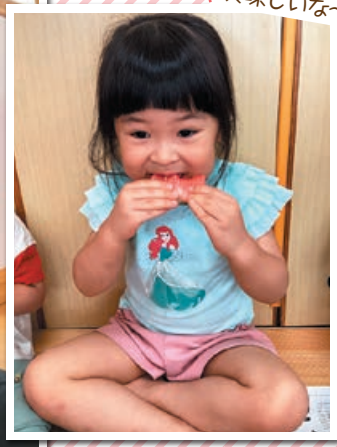


ほんわか
ショット

お食事タイム



スイカって甘くて
美味しいな〜♡



大きなスイカを両手で
持っています



スイカの端っこを
かじっています



じっくり観察♡



管理者室より	研修医日記	外来診療担当表	公式Instagram

@FUKUYAMA_CITY_HOSPITAL

1F フロアマップ

※増改築工事の進捗状況により変更の場合があります。





交通のアクセス

●山陽自動車道福山東インターより車で2分

「東城・府中」方面へ進んでください

国道182号線に出られたらすぐ右折レーンにお入りください
（「福山市街」方面からは右折が困難です）

●JR福山駅より
車で15分　バスで20分
福山駅前 2・8番乗場
↓
福山市民病院下車

※広報誌「ばら」に対するご意見をお寄せください。

福山市民病院
〒721-8511　広島県福山市蔵王町5丁目23-1
電話 (084)941-5151　FAX (084)941-5159
ホームページ ●https://www.fc-hosp.jp/
電子メール ●shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。